

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：24505
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2012～2014
 課題番号：24390479
 研究課題名(和文)医療通訳・コーディネーターの教育プログラムの看護大学と外国語大学による共同開発

研究課題名(英文) Education for Medical Interpreters and Coordinators: Toward the Development of Effective Curriculum in University Medical Interpretation and Coordination Programs

研究代表者
 金川 克子 (KANAGAWA, Katsuko)
 神戸市看護大学・看護学部・名誉教授

研究者番号：10019565

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,000,000円

研究成果の概要(和文)：神戸市看護大学と神戸市外国語大学が、医療通訳・コーディネーターの教育プログラムを共同開発し、実践して効果を検証した。全国の看護系・外国語系学部対象の質問紙調査の結果、開講中の大学はないが、約25%が育成は大学の役割だとした。神戸の医療機関への聞き取りの結果、NPOによる医療通訳制度があるが、拡大が課題だとした。国内外の教育機関と医療通訳士協会のカリキュラムをモデルに、学生向け講座および市民向け講座を開講した結果、演習拡大が課題だとわかった。

研究成果の概要(英文)：Kobe City College of Nursing and Kobe City University of Foreign Studies developed, implemented, and evaluated an educational program to educate medical interpreters and coordinators. An inventory of departments of nursing and foreign studies in Japanese universities was conducted. No university surveyed had an educational program for that purpose, but approximately 25% of the universities thought that it would be appropriate for universities or graduate schools to take up that role. Personnel at medical institutions in Kobe were interviewed. A medical interpreter system by an NPO functions effectively but there is a problem spreading it to other medical institutions. On the basis of the 40-hour program of Japan Association of Medical Interpreters, we developed the program. Educational courses were implemented for both professional and non-professional medical interpreters and coordinators. We found that they were effective, but that more practical training should be incorporated.

研究分野：看護学

キーワード：医療通訳・コーディネーター 教育プログラム開発 医療通訳のニーズ調査 外国語大学と看護大学による共同講義

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代以降、グローバル化が進展するにつれ、国内の定住外国籍市民が急速に増加している。平成16年に外国人登録者数が200万人を超えてからも、外国籍市民の定住化は長期にわたって増加傾向にある。それに伴って、彼らが医療・保健・福祉の分野で言葉の壁に直面するケースが、以前とは比較にならないほど増えている。

また短期的滞在の旅行者も増加している。外国人旅行者は平成25年に年間1,000万人を突破した。またメディカルツーリズムによる外国人患者の受け入れも始めている。特に神戸市では、平成26年3月に兵庫県が京都府・大阪府とともに「国家戦略特区」に指定され、「国家戦略特別区域高度医療提供事業」が国の認定を受けたことから、高度医療を求める外国人患者の急増が見込まれている。

(2) このような動きの中で、医療現場における外国人利用者の言語的不安や情報不足への対応が喫緊の課題となっていることから、これらの問題を直接的に解決する存在として、医療通訳やその連携・調整（コーディネーション）を行う人材が急速に必要性を増している。医療通訳業務は、高度な語学力や通訳技術のみならず、医学用語や医療制度、医療文化についての専門的知識が必要である。そのため、外国人の文化的背景や特性を理解し、他の医療スタッフ等との連携・調整を行う看護職（保健師・助産師・看護師）が「多文化医療コーディネーター（仮称）」として機能を果たすことは、円滑で質の高い医療通訳業務の遂行にとって極めて意義が大きい。

(3) こうした背景から、神戸市看護大学と神

戸市外国語大学では、大学教育において医療通訳・コーディネーターを育成するための教育プログラムの開発を行うと同時に、実際に開講することによってその効果を実証した。

2. 研究の目的

全国の看護系大学と外国語系の大学・大学院の医療通訳に関する教育の現状を明らかにする。

神戸市域での医療機関における医療通訳の実態とニーズを明らかにする。

国内外の医療通訳・コーディネーターの実践例および教育例を調査する。

これらに基づいて医療通訳並びに多文化医療コーディネーターの教育プログラムを開発、実践し、評価する。

3. 研究の方法

研究目的 については、全国の看護系、外国語系大学を対象にしたアンケート調査。

研究目的 については、神戸市内の外国人を多く受け入れている医療機関に聞き取り調査。

研究目的 については、海外、国内の教育機関のプログラムを調査するとともに、実際に受講した。

研究目的 については、学生向け講座、市民向け講座をそれぞれ開講し、授業後のアンケート調査と聞き取り調査によって検証した。

4. 研究成果

全国の看護系大学、外国語系大学を合わせて、339校のうち、111校（32.7%）からの回答によると、両領域の大学、大学院と

も、医療通訳・コーディネーター養成のための授業科目を設置している大学はなかった。それに関連する授業科目は、看護系大学では半数以上の大学が設置していた。科目としては、英語関連が多く、異文化・多文化に関する科目や国際保健に関する科目等、多岐にわたっていた。おおむね4分の1弱の大学が、また4分の1強の大学院が、医療通訳・コーディネーター養成を、自らの役割だと考えていた。しかし、現時点での教育は困難との回答であった。

神戸市内の外国人を多く受け入れている医療機関に聞き取り調査を行い、医療通訳・コーディネーターのニーズを調査した。現在、FACILというNPOによる医療通訳制度が有効に機能しているが、他の医療機関に拡大するという課題がある。

海外、国内の教育機関のプログラムを調査し、カリキュラムを立案した。医療通訳士協議会が定めた40時間のプログラムをモデルに、実施可能なカリキュラムを作成した。

学生向けの医療通訳・コーディネーター教育を実施し、教育効果を検証した。概ね効果的であったと評価できるが、演習の比率を高める必要がある。市民向けの医療通訳・コーディネーター教育を実施し、教育効果を検証した。予想を上回る受講申し込みがあり、教育プログラムも概ね好評であったが、実践的な演習を希望する声が多かった。

2014年10月25日に神戸市西区において、シンポジウム「大学における医療通訳・コーディネーター育成の課題と可能性」を行った。基調講演として楊承淑（輔仁大学）氏を招き、台湾における医療通訳育成に、

大学が果たした役割を報告していただいた。また、シンポジウムとして、松葉祥一（神戸市看護大学）、糸魚川美樹（愛知県立大学）、瀧澤清美（群馬大学）、青山亨（東京外国語大学）、中田研（大阪大学）の各氏が、各大学における医療通訳・コーディネーター育成の現状と課題および将来の展望について報告と討論を行った。

2015年3月に、11本の論文を収めた成果報告集『医療通訳・コーディネーターの育成：大学教育カリキュラムの可能性』（金川克子編、神戸市看護大学、2015年）を出版し、関係各所に配布した。

今後の課題として、次の4点があげられる。

実践教育の強化：学部学生向け、市民向けのいずれの講座も、演習を拡充し、上記の40時間講義に近づけたい。

医療通訳制度の確立：医療通訳の認定制度や、費用負担、医療通訳派遣制度など、公的制度の整備のために政策提言を行っていく必要がある。

医療通訳の認知度の向上：医療施設及び一般市民に対して、専門的な医療通訳の必要性と効果を訴えていく必要がある。

医療通訳に関する研究：研究機関の役割として、外国籍市民と医療に関する研究を行う必要がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文]

金川克子：増えゆく外国人患者を支える人材の育成を目指して－看護大学と外国語大学の連携による医療通訳・コーディネーター教育プログラム, *Nursing Business*, 8(5), 2014、メディカ出版。

金川克子、松葉祥一、船山仲他、藤代節、福嶋教隆、成瀬和子、下地早智子、川越栄子、益加代子、植本雅治、山下正、医療通訳・コーディネーターの教育プログラムに関する看護系大学と外国語系大学による共同開発、保健の科学, 157(6), 2015.

〔書籍〕

金川克子編：科研成果報告書、医療通訳・コーディネーターの育成：大学教育カリキュラムの可能性、神戸市看護大学, 2015.

- 1) 松葉祥一、金川克子、船山仲他、福嶋教隆、下地早智子、植本雅治、川越栄子、成瀬和子、藤代節、益加代子、山下正、グレング美鈴、嶋澤恭子、岸田文隆、金京愛、村松紀子、岡本悠馬、加藤憲司：神戸市看護大と神戸市外大による医療通訳・コーディネーター育成のプログラム開発の試み、3-16.
- 2) 福嶋教隆：単位互換講座「医療通訳・コーディネーター入門」についての報告、17-20.
- 3) 村松紀子：大学学部教育における医療通訳コースの導入に関する考察、21-26.
- 4) 岡本悠馬：医療通訳を学ぶ、医療通訳を実践する：関西地域を中心とした学習の場と方法、現場での課題、27-42.
- 5) 竹迫和美、瀧澤清美：市民公開講座に参加するシニア世代学習者と市民公開講座開講の意義～神戸研究学園都市 UNITY 公開講座参加者のアンケート調査から、43-52.
- 6) 加藤憲司：シンポジウム「大学における医療通訳・コーディネーター育成の課題と可能性」参加報告、53-58.
- 7) 糸魚川美樹：愛知県立大学「医療分野語学講座」の取り組みと課題、59-68.
- 8) 楊承淑：台湾における医療通訳育成に大

学が果たした役割、69-82.

- 9) 下地早智子：異言語文化間における「非礼」：日本語と中国語間にみられる言語行為解釈の異同、83-98.
- 10) 船山仲他：医療通訳におけるアドボカシー、99-106.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金川 克子 (KANAGAWA, Katsuko)
神戸市看護大学・看護学部・名誉教授
研究者番号： 10019565

(2) 研究分担者

船山 仲他 (FUNAYAMA, Chuta)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号： 10199416

福嶋 教隆 (FUKUSHIMA, Noritaka)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号： 50102794

下地早智子 (SHIMOJI, Sachiko)
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号： 70315737

植本 雅治 (UEMOTO, Masaharu)
神戸市看護大学・看護学部・教授
研究者番号： 90176644

松葉 祥一 (MATSUBA, Shoichi)
神戸市看護大学・看護学部・教授
研究者番号： 00295768

川越 栄子 (KAWAGOE, Eiko)
神戸女学院大学・文学部・教授

研究者番号： 80285361

藤代 節 (FUJISHIRO, Setsu)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号： 30249910

益 加代子 (EKI, Kayoko)

愛知県立大学・看護学部・講師

研究者番号： 80511922

山下 正 (YAMASHITA, Tadashi)

神戸市看護大学・看護学部・助教

研究者番号： 90613092

(3)連携研究者

グレッグ 美鈴 (GREGG, Misuzu)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号： 60326105

嶋澤 恭子 (SHIMAZAWA, Kyoko)

神戸市看護大学・看護学部・准教授

研究者番号： 90381920

岸田 文隆 (KISHIDA, Fumitaka)

大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号： 30251870

(4)研究協力者

金 京愛 (KIM, Kyung-ae)

村松 紀子 (MURAMATSU, Noriko)

岡本 悠馬 (OKAMOTO, Yuma)